

(事例 11) 建設業

－ リスクアセスメント KY から導入を開始！－

1 規模

(工事)130名(全社 239名)

2 リスクアセスメント等実施体制

実施体制	役職等
統括管理	工事本部長(総括安全衛生管理者)
実施管理	工事部長(安全管理者)
作業指揮	各現場所長

3 リスクアセスメント等導入時期

平成 18 年 6 月

4 リスクアセスメント等導入のきっかけ

災害発生件数については、増加した翌年は減少という状況の繰り返しであり、全員が危険ゼロ、安全衛生水準の向上を目指して、継続して取り組まなければならないと気運が高まっていました。その時期に、労働安全衛生法改正に基づきリスクアセスメントが職長教育受講の法定事項となり、事業者の努力義務となった時期とが重なり、元方事業者の関係請負人は法令順守のための指導義務であることから導入することにしました。

平成 16 年～平成 18 年災害発生件数の推移

	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
休業 4 日以上	7	8	2
休業 4 日未満	0	0	0
不休災害	13	5	2

5 「危険性又は有害性の特定」で成功した事例又は苦労(失敗)した事例

リスクアセスメントを現場へ導入する手始めとして、危険予知活動を拡充してリスクアセスメントを導入することにしました。導入していく過程で、次のような問題点や要望が現場から出てきました。

【問題点】

- (1) 本日の作業内容と作業手順が一緒になる。
- (2) 作業内容に対する作業手順の洗い出しの内容が充実しない。
- (3) KY を行う時間内でリスクの洗い出しを行うには、時間が掛かりすぎる。

【要望】

- (1) 作業手順と予想される危険・災害の参考例が欲しい。

(2) 指導のやり方の参考例が欲しい。

そのため、工種毎のリスクアセスメントを取り入れた作業手順書をリスクアセスメントの社員教育の一環として、若手社員で「標準作業手順書」を作成しました。

6 「リスクの見積り」で成功した事例または苦勞（失敗）した事例

(1) 導入当初のリスクアセスメント KY は、3 段階の足し算による評価で実施しました。

【評価基準についての現場の意見】

- ・ リスク見積りの「可能性・重大性」の評価が各人によって違うので評価基準があれば良い。
- ・ 災害事例に対して、可能性・重大性の一覧表があれば良い。
- ・ 可能性・重大性についての採点が大きくなりがちで、評価点数を比べるとどれも同じ点数になって、どれが最も注意すべきか分からなくなることがある。

(2) リスクアセスメント推進委員（各課代表、モデル現場所長）による検討を実施しました。

【検討内容】

- ・ リスクの見積り・評価について、点数（数値化）か記号（○△×）を検討する。
- ・ 点数（数値化）は 3 段階か 4 段階、掛け算式か足し算式を検討する。
- ・ 実状はどうしてもこれまでの KY になりがちである。評価基準や例題があれば取組み易い。

【検討結果】

- ・ 点数は 1・2・3 の 3 段階、評価の見積りは、掛け算式で実施する。
(掛け算式 評価 6 段階 1.2.3.4.6.9 > 足し算式 評価 5 段階 2.3.4.5.6)
 - ・ 見積り・評価の良し悪しについては、下請業者の評価基準で記載させています。特に問題がなければ、見積りに対する指導は行っていません。
- (3) 現在、当社におけるリスクアセスメントは、作業手順を細分化させる事とその手順に対する危険性・有害性を特定させる事を重視しています。

7 「リスクアセスメント実施状況の記録と見直し」で成功した事例または苦勞（失敗）した事例

(1) 導入時のリスクアセスメント KY 実施状況は、作業手順を細分化させることが難しい様で、作業内容がそのまま作業手順だったり、作業手順が 1 項目しか記載していないという状況が多くありました。現場員が複数いる工事現場は、リスクアセスメント KY 時に確認・指導を行えますが、現場員が 1 人の工事現場では、KY 実施後に掲示してあるリスクアセスメント KY シートを見て確認した後での指導となるため、なかなか職長に伝わりませんでした。

- (2) 職長のためのリスクアセスメント講習受講については、協力会から助成金を交付して推進しましたが、受講者があまり増えないため、当社主催でリスクアセスメントの休日講習を平成20年1月と2月に計4回(1日講習2回、2日間講習2回)実施しました。
- (3) リスクアセスメントを導入して2年目に入り、リスクアセスメント講習を受講した職長が増えてきましたので、平成20年3月の社内安全パトロールより、リスクアセスメントKYの実施状況を安全パトロールの評価対象に加えるようにしました。
- (4) 工事部の「年度安全目標」は、各工事課で過去数年間に発生した災害記録を基に各課でリスクアセスメントを行い、各工事課の安全目標を作成後、工事部の安全目標を策定する様に変更しました。
- (5) リスクアセスメントKYは、職長が前日に作業手順と危険性・有害性の洗い出しを行い、朝礼後に内容発表を行い、その後に行っています。作業員に「その他にないか?」と意見を求め、最後に見積りを行うことを推奨しています。

リスクアセスメントKYをより充実したものにするため、以上の指導を継続して実施しています。

8 リスクアセスメントの効果

現場員のアンケートによると、安全意識が高まったとの次のような意見がありました。

- (1) 作業内容、作業手順を細かく記入することで、各作業で予想される危険性・有害性が明確になり作業中に自然に注意するようになりました。
- (2) 作業手順を考えて予想される危険性・有害性を具体的に細かく認識するようになりました。
- (3) 各関係請負人が何をしているか、どんな危険性・有害性があるかが一目で分かるようになったので、注意・指導がしやすくなり目が行き届くようになりました。

1. 枠組み足場組立て作業

No.	作業内容	作業手順	予想される危険・災害	可能性 重大性	発生日 (回・年)	評価	安全対策	誰が	
1	準備作業	使用用具・工具類点検	ワイヤーが切れ、吊荷が落ちる。	1 2 3	6	4	玉掛ワイヤーの始末前点検をする。	玉掛者	
			ワイヤーが外れ、吊荷が落ちる。	1 2 3	3	3	吊フックの外れ止めを確認する。	玉掛者	
		危険・立入禁止区域設定	関係者以外が立入り、吊荷に衝突する。	1 2 3	3	3	立入禁止表示をわかりやすい所に表示し、カラーコーン等で区画をする。	作業主任者	
			資材を運ぶ	移動中の資材につまづき、転倒する。	1 2 3	6	4	作業通路を片付ける。	作業者
2	部材の搬入 荷おろし・小運搬	荷おろし(クレーン)	部材が荷崩れし、下敷きになる	1 2 3	6	4	部材の山を1つずつ結束しているか確認する	玉掛者	
			吊上げた際、部材と接触する	1 2 3	6	4	クレーンオペレーターとの合図の確認を確実に行う	玉掛者 オペレーター	
			荷重オーバーでクレーンが倒れる	1 2 3	4	3	吊荷の荷重を確認しておく 黄色ランプで作業中止の徹底	オペレーター	
			クレーンのブーム又は資材が足場と接触する。	1 2 3	3	3	急旋回をしない。 上部作業員と連絡を密に行う。	オペレーター 作業員	
		部材の確認	吊荷が落下して下敷きになる	1 2 3	6	4	荷を吊る前に玉掛けを確認する。 吊荷下への立入禁止措置を行う。 複数の部材を吊る際は、首輪などで固定する。	玉掛者	
			部材が荷崩れし、下敷きになる	1 2 3	6	4	地盤を平にして部材を置く 直接、地面に置かない。リンボ等を使用する	玉掛者 作業者	
		設置場所への小運搬	部材で、手・足を挟む	1 2 3	4	3	玉掛者と合図者の2名で作業する クレーンオペレーターとの合図の確認	玉掛者 オペレーター	
			運搬時に人に接触する	1 2 3	6	4	安全通路を確保し、各業者に周知させる	作業主任者	
			運搬時に物に踏み転倒する	1 2 3	4	3	通路の整理の徹底と周囲・足元の確認 長尺物は2名以上で運搬する	作業者	
3	観綱設置	○観綱支柱を使用する場合							
		支柱セット	セット時に部材を落とす	1 2 3	4	3	上下作業にならない様打合せをさせる。 掛け合い下部の人払いを徹底させる。 支柱間隔4スパン以内に設置する。	作業主任者	
		観綱フックかけ	足場からの墜落	1 2 3	6	4	安全帯の使用の徹底 作業床がGL+3.5m以下では観綱は使用しない 観綱点検を行い、フックの掛かりを確認し作業する	作業主任者	
			緊張後の余りロープが物に引っかかる	1 2 3	4	3	余りロープを束ねる	作業者	
		観綱を緊張器により緊張	緊張する際、手が滑り、後ろに倒れ足場から墜落する。	1 2 3	4	3	反動がかかる作業は、手元に注意する。 足元のBTに安全帯を掛けて作業する。	作業者	
		○建枠を観綱支柱として使用する場合							
		左右の支柱用建枠取込み	後方の作業者と接触し、取込み中の資材を落下させる。	1 2 3	6	4	周囲の確認を徹底する。 作業中は声を掛け合い作業する。	作業者	
			安全施設が不十分な状態で作業になり安全帯を使用せずに足場から墜落する	1 2 3	4	3	安全帯を使用する	作業者	
		支柱用建枠セット	支柱用建枠が落下し、下部作業員を打撲・骨折又は死亡させる。	1 2 3	4	3	完全にセットできているか確認を行う。	作業主任者 作業者	
余ったロープに足がからまり、転落・転倒する	1 2 3		4	3	余りのロープを束ねる 4スパン以内で建枠を建てる	作業者			
観綱セット、緊張	緊張器が壊れ、墜落災害を起こす。	1 2 3	4	3	作業前に緊張器の点検を行う。	作業主任者			

(注) 本資料は、平成21年6月1日から施行された足場からの墜落防止措置に係る労働安全衛生規則が改正される前に作成されたものです。

No.	作業内容	作業手順	予想される危険・災害	可能性 重大性	発生の 頻度 (回/日)	評価	安全対策	誰が
4	第1層～2層の 組立て	砕石敷き、転圧	転圧プレートで足を挟みケガをする	1 (2) 3 1 (2) 3	4	3	プレートの進行方向に立たない 狭い場所では、作業スペースを確認する	作業者
			敷板の配置	長い敷板の配置時に人・物に接触する	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	作業通路を確実に確保し、周囲確認を徹底する
		ジャッキベースの配置	敷板、ジャッキベース等で踏く	1 (2) 3 1 (2) 3	4	3	敷板をきれいに並べ、敷板の位置を確認して作業する 作業通路を通る	作業者
		建枠を建てながらプレースを 組立て	建枠が倒れ、打撲する。	1 (2) 3 1 (2) 3	4	3	プレースを取付ける際、建枠に介人をつける。 プレースを取付ける前に、建枠の固定を確認する。	作業主任者
			組立時にプレースで手を挟む	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	保護手袋を使用し、手元に注意して作業する	作業者
		通りの確認	調整時に足場が倒れ、下敷きになる	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	地盤・敷板の不陸の確認	作業者
			調整時にジャッキベースの差込みがあまく転倒する	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	無理な状態でジャッキベースを使用しない	作業者
		建物側のベースの固定	躯体の差筋によるケガ	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	鉄筋カバーの取付	作業者
			差筋による踏み・転倒	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	安全通路の確保	作業者
		水平の確認	ジャッキ調整時に手を挟む	1 (2) 3 1 (2) 3	4	3	調整時、ハンマー等を使用する 保護手袋を使用する	作業者
			資材等に踏み転倒する。	1 (2) 3 1 (2) 3	1	1	資材整理を行い、作業通路の確保を行う。	作業者
		外側ベースの固定	ハンマーで指を打つ	1 (2) 3 1 (2) 3	1	1	手元の確認 保護手袋を使用	作業者
			建枠脚部の根がらみ 取付け	設置した根がらみに踏み転倒する	1 (2) 3 1 (2) 3	4	3	周囲の安全確認を行う
		1層目の床付き布枠取付 け	持ち上げた際に腰を痛める	1 (2) 3 1 (2) 3	2	2	一枚ずつ確実に持ち上げる 必要に応じ、2人1組で取付作業を行う。	作業者
			1層目の布枠が高い場合、脚立等を使用し転 倒する	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	脚立使用時は閉き止めと足元の確認を行う 無理な体勢で作業を行わない。	作業者
		昇降階段の取付け (手摺とも)	掛けそびれバランスを崩し転倒する	1 (2) 3 1 (2) 3	2	2	安全帯を使用し、必ず二人で作業する	作業者
			開口部から墜落する。	1 (2) 3 1 (2) 3	2	2	開口部付近での作業時は安全帯の使用を徹底する。	作業者
		2層目の部材の取込み	部材の受け渡しの際、取り落とし、下敷きになる	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	声を掛け合い確実に手渡しを行う	作業者
			建枠、プレース、 床付き布枠	部材を取り落としケガをする	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	取付を確認し、上下作業にならない様打ち合わせと 合図の掛け合いを行う
		周囲作業員と接触する。		1 (2) 3 1 (2) 3	2	2	取付作業の際の周囲確認を徹底する。	作業者
		昇降階段、手摺類	振りまわし時に人にぶつかる	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	安全通路を確保し、周囲・合図の確認を行う	作業者
			振りまわし時に人にぶつかる	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	周囲の安全確認を徹底に行う	作業者
		出入口用梁枠、方杖	梁枠取付中に墜落する。	1 (2) 3 1 (2) 3	4	3	安全帯を確実に使用する。	作業者
			仮置材が落下し、人にぶつかる(下にあるので)	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	仮置材は落下しないよう固定する	作業者
		2層目の建枠・プレース ・床付き布枠の取付け	バランスを崩し墜落する	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	二人以上で作業し、安全帯を使用する 観測を先行させ、安全帯の使用を徹底する。	作業者
			取付の際、指を挟む	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	手元・合図の確認を行う	作業者
		妻側の手摺取付け	バランスを崩し墜落する	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	安全帯を使用する	作業者
			部材を落とし、人に当たケガをする	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	上下作業にならない様、打ち合せと合図の確認を行う	作業者
		出入口梁、方杖等取付け	梁枠を落とし人が下敷きになる	1 (2) 3 1 (2) 3	6	4	上下作業にならない様、打ち合せと合図の確認を行う 下部の立入禁止措置をする	作業者
			梁枠取付の際、バランスを崩し墜落する	1 (2) 3 1 (2) 3	9	5	安全帯を使用し、二人以上で作業をする	作業者

No	作業内容	作業手順	予想される危険・災害	可能性 重大性	見逃し 率	評価	安全対策	誰が
5-1	【3層以降の建立】 通常の作業方法	部材取込み	部材運搬時に人と接触する	① 2 3 ① 2 3	2	2	周囲の確認を徹底する 作業前に他業者へ作業動線を伝える	作業者
			仮置時に前倒れし、下敷きになる	① 2 3 ① 2 3	2	2	リン木等を使い、置き場を必ず水平にする	作業主任者
			運搬時に置き転倒する	① 2 3 ① 2 3	4	3	安全通路を確保し運搬する	作業者
			部材を持ち上げた際、腰を痛める	① 2 3 ① 2 3	1	1	急に持ち上げず、ゆっくりに持ち上げる	作業者
		足掛・ブレース・市杵の 取付け	バランスを崩し墜落する	① 2 3 ① 2 3	3	3	無理な姿勢で作業をしない 頼綱を先行させ、安全帯を使用する	作業者
			部材手渡しの際の取りこぼし	① 2 3 ① 2 3	2	2	声の掛け合い・合図の確認で作業する 作業下部の立入禁止措置を行う	作業者
			取付の際に指を挟む	① 2 3 ① 2 3	3	3	手元に注意して取付ける	作業者
		手摺・階段・小物の取込み	小物を足場から落とし、下の人に当たる	① 2 3 ① 2 3	3	3	上下作業にならないように作業前に打ち合わせる 作業下部の立入禁止措置を行う	作業主任者 他業者
			階段で振りまわす際、人と接触する	① 2 3 ① 2 3	1	1	周囲の安全を確認しながら作業する	作業者
		昇降階段取付け (手摺とも)	小物を足場に置き、置き墜落する	① 2 3 ① 2 3	3	3	安全通路を確保しながら作業する 小物は袋に入れて置く	作業者
			取付け作業時、開口部から墜落する	① 2 3 ① 2 3	3	3	安全帯の使用を徹底する 無理な姿勢で作業をしない	作業者
			階段に他の部材が引っかかり置く 取付け時に手を挟む	① 2 3 ① 2 3	2	2	一人で作業をせずに二人以上で合図をしながら取付ける	作業者
			部材を取りこぼし、下の人がケガをする	① 2 3 ① 2 3	2	2	上下作業をしない	作業者 (他業者)
			シートや手摺取付けの際、筋交いの間から 墜落する	① 2 3 ① 2 3	4	3	安全帯の使用し作業する	作業者
		裏側の手摺取付け	手摺取付け時に足場からの墜落	① 2 3 ① 2 3	3	3	上下作業にならない様に打合せを行う	作業者
			手摺取付け時に部材を落とし下の人がケガをする	① 2 3 ① 2 3	6	4	安全帯の使用を徹底させる	作業主任者
		足場つなぎ・層間安全 ネットの取付け	層間の開口部からの墜落	① 2 3 ① 2 3	6	4	安全帯の使用を徹底して作業を行う	作業者
			層間の部材を落とし下の人がケガをする	① 2 3 ① 2 3	6	4	上下作業の禁止を徹底する為、作業前の打合せをする	作業主任者
		頼綱の盛替え	盛替え時に盛替者以外の頼綱使用者が足場 から墜落する	① 2 3 ① 2 3	6	4	盛替時は、盛替者以外は下段に下ろす	作業者
			玉掛時、指を挟んでケガをする	① 2 3 ① 2 3	4	3	玉掛合図及び手元の確認を徹底して作業する	玉掛者
		クレーン使用	強風による吊荷の落下	① 2 3 ① 2 3	3	3	強風時は無理をせずに作業を停止する	作業者
			ワイヤー切れによる吊荷の落下	① 2 3 ① 2 3	3	3	作業前にワイヤー等の資材の点検を行う	作業者
			取込みの際の墜落	① 2 3 ① 2 3	6	4	安全帯の使用を徹底し無理な姿勢で作業をしない 介絡ロープを使用する 取込み時、足元確認	作業者
			旋回中に接触・巻き込み事故が起こる	① 2 3 ① 2 3	9	5	半径作業半径内はカラーコーン又は、ロープ等で 立入禁止措置を行う	作業主任者 オペレーター
		ロープによる	車輪が転倒する	① 2 3 ① 2 3	3	3	アウトリガーは最大まで挿出しすること	オペレーター
			結び不良の為の落下	① 2 3 ① 2 3	6	4	作業前にロープ等の資材点検を行い作業する 地切りの際、確認をする	作業者
			荷操作業員がバランスを崩し、墜落する	① 2 3 ① 2 3	6	4	安全帯の使用を徹底する。 無理な姿勢で作業をしない。 小物は袋に入れて取込む。	作業者
			結び不良の為の落下	① 2 3 ① 2 3	6	4	作業前にロープ等の資材点検を行い作業する 地切りの際、確認をする	作業者
		握力低下による落下	① 2 3 ① 2 3	3	2	無理をせずに早目に交代などの処置を行う	作業者	

No.	作業内容	作業手順	予想される危険・災害	可能性 重大性	見取り 図・表	評価	安全対策	誰が
5-2	大組 層×スパン	準備						
		移動式クレーンの設置	アウトリガー張り出し中に他の作業員に接触する 設置場所の安定が悪く、クレーンが転倒する。	① 2 3 1 2 3	3 3	3 3	アウトリガーの張り出し時、周囲確認をする 監視人をつける 鉄板等で養生を行い、設置場所の安定性を確保する。	作業員 作業主任者
		地組み場所の段取り	関係者以外が荷降し範囲に進入し、吊荷に接触する 整地時の覆き・転倒 荷揚げの際、建物等に吊荷が衝突する。	① 2 3 1 2 3 1 2 3	9 5	5 5	荷降しスペースを区画し、監視人を付ける カラーコーン又はロープ等で立入禁止措置を行う。 なるべく凸凹のない場所を選び 無い場合は整地する 地組みスペースは広い場所を確保する。	作業主任者 オペレーター 作業主任者
		玉掛用具の点検、確認	素手でワイヤーの点検・確認をして手にケガをする 玉掛ワイヤーが切れ、吊荷が落下する。	① 2 3 1 2 3	3 6	3 4	厚手の革手袋を使用する 始業前点検を徹底する。	玉掛者 玉掛者 オペレーター
		接続順序の確認	接続順序での人員配置が出来ていない為に 不安全行動が起きやすくなり災害になる 吊り込みの際、ワイヤーが外れ落下・倒壊する。	① 2 3 1 2 3	6 3	4 3	事前に打合せを行う 作業主任者の指示に従い、作業を行う。 作業主任者が吊り込み前に確認を行う。	作業主任者 作業員 作業主任者
		地組み						
		建枠～ブレース 床付き布枠、昇降用 階段の組立て	2層目の足場組立時に足場上から墜落する	① 2 3 1 2 3	4 3	3 3	地組の2層目でも鉄網等の安全設備を設け、安全帯を 使用させる	作業員
		足場つなぎ金物取付け	取付作業時、バランスを崩し墜落する。	① 2 3 1 2 3	4 3	3 3	足元を片付け、安全帯の使用を徹底する。	作業員
		接続用部材 養生用部材の結束	体を乗り出した際、墜落する。 部材が外れ、落下する。	① 2 3 1 2 3	4 3	3 3	安全帯の使用を徹底する。 部材の結束・緊結を確認する	作業員 作業主任者
		つぎ込み・接続						
		玉掛け、巻上げ	ワイヤーが切れて吊荷が落ちる 巻上げの際、バランスが崩れ建物等に衝突する。 足場の片側に部材を乗せた為、荷吊時にバラン スを崩し吊荷が落下する 玉掛が外れ、落下する。	① 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	6 3 9 3	4 3 5 3	クレーン・吊荷の作業半径内への立入を禁止する 巻上げはゆっくりと慎重に行う。 介錯ロープを使用する。 バランス良く荷を乗せ、小物等は革製の袋等を使用し、 落下しないように結束する 吊揚げ前に玉掛の確認を行う。 (玉掛けは4点吊りとする)	玉掛者 オペレーター 作業主任者 作業員
		所定位置に旋回・巻上	巻上げ時に玉掛作業員に接触する 旋回半径に人が入り接触する	① 2 3 1 2 3	9 6	5 4	玉掛けを確認し部材から離れて合図を送る 介錯ロープを使用する 旋回半径内立入禁止にし、監視人をつける 介錯ロープを取付け、安全に吊荷を誘導する	玉掛者 作業員
		先行の層に接続	旋回時に吊荷が振りまわされ、建物や人に 接触する	① 2 3 1 2 3	6 4	4 4	作業主任者の指示に従い、作業を行う。 (接続は布板の下段から行う)	作業員
		接続部分の床付き布枠 ブレース取付け	接続の際、体が挟まれる。 ブレース取付時に手・足を滑らせ足場上から墜落 取付時、材料を下部へ落下させ下部作業員に ケガをさせる。	① 2 3 1 2 3	6 6	4 4	先行して鉄網を張り、安全設備を確保する 作業通路を片付ける 組立作業内立入禁止の表示を行う。	作業主任者 作業員
		足場つなぎ取付け	足場つなぎ取付時に足場から身を乗り出し、 隙間部に墜落する 足場つなぎを下に落とすとして下部の人がケガをする	① 2 3 1 2 3	6 6	4 4	墜落ネットの先行設備 安全帯の使用の徹底 声を掛け合い、上下作業を行わない	作業員 作業員
		玉掛ワイヤーの取外し	部材が荷崩れを起こし、手・足を挟む	① 2 3 1 2 3	6 4	4 4	なるべく平らな場所に置き、キャンパー等で仮固定を行った後 ワイヤーをはずす	作業員

No.	作業内容	作業手順	予想される危険・災害	可能性 重大性	見積り (H・R)	評価	安全対策	誰が
6	最上段の組立て	手摺の取付け	層間開口部からの墜落災害	1 2 3	9	5	安全帯の使用を徹底	作業主任者 作業者
			層間開口部からの部材の取りこぼし	1 2 3	9	5	落下ネットの設置	作業主任者 作業者
7	建物への渡りの取付け	部材・小物の荷揚げ	荷揚げの際、荷崩れし部材が落下し人に当たる	1 2 3	3	3	玉掛けは必ず有資格者が行う 小物は袋に入れて荷揚げする	玉掛け者
			ワイヤーが切れ部材が落下し人に当たる	1 2 3	3	3	ワイヤーの点検を行って荷揚げする	玉掛け者
		ベランダ等への渡り設置 屋上階への渡り設置	渡りの躯体側の左右に手摺がない為に墜落する 躯体との層間部に落ちる	1 2 3	6	4	躯体側の左右に手摺を設ける 渡り時は一時的に手摺が無いので安全帯を使用する	作業者
		建物内への渡り設置	建物内からの渡りの段差で置き転倒する	1 2 3	6	4	段差の注意表示をする	作業者
8	コーナー部の渡り設置と連結	渡り設置、手摺取付け	資材を落とし、下部作業員に当たる。	1 2 3	6	4	下部作業員への声掛け及び人払いを行う。	作業者
		幅木取付け	番線が目を突く。	1 2 3	2	2	作業手続を守り、慌てず作業する。 番線の切断部を外側に向ける。	作業者
		足場コーナー部分の連結	連結部の布枠の隙間に踏み、転倒する	1 2 3	3	3	布枠の隙間を足場板で塞ぎ、番線で固定する	作業者
9	足場の補強	クレーン、リフト設置箇所	補強設置中にリフトが動きケガをする	1 2 3	6	4	補強設置中はリフトが動かない様に電源を切る	作業者
			躯体と圧送管の間に手を挟む	1 2 3	2	2	無理な姿勢での作業をせず、手元に注意する	作業者
		生コン圧送管設置箇所	圧送管を落とし、下の人がケガをする	1 2 3	4	3	声を掛け合いながらタイミングをはかり、作業をする	作業者
			圧送管が倒れ、作業員に当たる。	1 2 3	9	5	圧送管の支持固定を確認する。	作業主任者
朝顔取付け部	朝顔部に物・人が落下する	1 2 3	6	4	クランプ等連結部の確認 安全帯100%使用で作業をする	作業者		
10	飛来落下養生	層間安全ネット	無理な姿勢での設置により墜落する	1 2 3	6	4	安全帯の使用の徹底	作業者
		朝顔	朝顔取付け時に部材を取りこぼし、下の第三者がケガをする	1 2 3	9	5	カラーコーン又はロープ等で立入禁止措置を行う。 監視人をつける。	作業者
		シートクランプ取りこぼしによる落下	1 2 3	6	4	声を掛け合い、上下作業を行わない	作業者	
		外周面の垂下養生シート	しゃがんでの作業時に筋交いの間から墜落する	1 2 3	3	3	安全帯の使用の徹底	作業者
11	横揺れの取付け	足場の最大積載荷重の横揺れを含む	脚立使用の際、足元整地不良の為、墜落	1 2 3	6	4	脚立の開き止めの確認をする 設置場所の足元の確認	作業者
12	組立て後の点検確認	脚立の滑動防止	前方不注意による階段開口部からの転落	1 2 3	6	4	開口部にゲートを取り付ける。もしくは安全表示を行う	作業者
		足場つなぎ各所補強部分	組立後に出た残材・余剰資材に置き転倒	1 2 3	6	4	足場上には不要な物を置かない	作業者
		各種養生等の点検・確認		1 2 3				
13	余剰資材等の後片付け	残材整理	足場に残る残材に踏み、墜落・転倒する	1 2 3	9	5	一作業一片付で作業通路を常に確保する	作業者
		仮設資材の整理	整理後の資材が荷崩れを起こし、下敷きになる	1 2 3	6	4	番線等で結束し固定する	作業者
		使用済みワイヤーを片付け	使用した玉掛けワイヤーを片付けていてケガをする	1 2 3	2	2	革手袋の使用の徹底	作業者
		使用済み資材の片付け	足場上に放置された工具が落下し、他の作業員にケガをさせる。	1 2 3	6	4	退場前、持参工具の確認を行う。 最終の足場上確認を行う。	作業主任者

現場員が1人の時の指導状況（指導前）

（型枠工事）

月 日 リスクアセスメント KYシート 現場名: 新築工事

本日の作業内容	本日の作業手順	予想される危険・災害	可能性		見積り (可×重)	評価
			重大性	重		
スラブ段取り		高所からの転落	1 2	3 3	6	作業床の設置
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
			1	2	3	
本日の予想される危険・災害の評価(◎)した災害の安全対策 ※～を～する と記入の事						
参加者名(サイン)						総員
会社名						5 名
職種 型枠大工			リーダー名			

可能性…3=よく有る 2=たまに有る 1=ほとんど無い、重大性(休業)…3=3ヶ月以上 2=4日以上 1=3日以内

現場員が1人の時の指導状況（指導後）

（型枠工事）

月		日		リスクアセスメント KYシート		現場名:		新築工事	
本日の作業内容	本日の作業手順	予想される危険・災害	可能性 重大性	見積り (可×重)	評価				
スラブ段取り		高所からの転落	1 ② 3 1 2 ③	6	作業床の設置				
手順を書く	サポート立て	○	1 2 3 1 2 3		◎				
	根太設置	○	1 2 3 1 2 3						
	コンパネ仮置き	○	1 2 3 1 2 3						
			1 2 3 1 2 3						
			1 2 3 1 2 3						
			1 2 3 1 2 3						
本日の予想される危険・災害の安全対策 ※～を～する と記入の事									
◎ と評価した分をココに書くこと									
参加者名(サイン)						総員 5 名			
会社名		職種		型枠大工		リーダー名			

可能性…3=よく有る 2=たまたまに有る 1=ほとんど無い, 重大性(休業)…3=3ヶ月以上 2=4日以上 1=3日以内

新築工事

月 日 危険予知活動及びリスクアセスメント

今日の作業工程	作業順序	予想される災害	重大性			可能性			合計点 (重+可)	評価 ◎:最高
			3	2	1	3	2	1		
1 安全朝礼	ラジオ体操	体調不良に寄るケガ・熱中症他	2			1			3	
2 8階壁配筋	鉄筋搬入・荷揚げ	クレーン作業による吊荷落下	3			1			4	◎
3	壁筋配り	長物振り回しに寄る他業者への接触	1			2			3	
4	壁配筋	脚立作業による転倒	1			2			3	
5										
6										
例	1 壁型枠建て込み	開口部からの飛来落下	2			1			3	○
		型枠建て込み	1			2			3	○
		セパ・フォームタイ取付	2			3			5	◎
	2 型枠解体	外部型枠鋼管バラシ	2			2			4	○

今日の予想される最高評価災害の安全対策

玉掛けは有資格者で行う。 玉掛後荷揚げ時に一旦止めて再度確を行う。 合図を無線等を使用し確実に行う
参加者名(サイン)

会社名	職種	鉄筋工	リーダー名
-----	----	-----	-------

安全衛生ハットローテ点検表

工事名	点検日	年度	年月	日
工事種	出発時刻	作業時間	予定通り	遅れ
責任者	作業内容	作業場所	作業内容	作業内容
検査員	作業内容	作業場所	作業内容	作業内容
工事概要	40以上	40未満	50以上	50未満
本日の作業内容	人員	作業内容	作業内容	作業内容

※安全ハットローテの前には自己点検結果を右点検票で申告欄に記載する。

分類	点検項目	評価		コメント
		申告	点検	
A 発出書類等	1 監督者(若しくは監督者)の資格 2 監督者(若しくは監督者)の経験 3 監督者(若しくは監督者)の健康 4 監督者(若しくは監督者)の教育 5 作業計画(若しくは作業計画)の作成 6 作業計画(若しくは作業計画)の承認 7 作業計画(若しくは作業計画)の更新 8 作業計画(若しくは作業計画)の共有			
B 現場管理	1 現場管理(若しくは現場管理)の体制 2 現場管理(若しくは現場管理)の体制 3 現場管理(若しくは現場管理)の体制 4 現場管理(若しくは現場管理)の体制 5 現場管理(若しくは現場管理)の体制 6 現場管理(若しくは現場管理)の体制 7 現場管理(若しくは現場管理)の体制 8 現場管理(若しくは現場管理)の体制			
C 指示等	1 指示(若しくは指示)の体制 2 指示(若しくは指示)の体制 3 指示(若しくは指示)の体制 4 指示(若しくは指示)の体制 5 指示(若しくは指示)の体制 6 指示(若しくは指示)の体制 7 指示(若しくは指示)の体制 8 指示(若しくは指示)の体制			
D 監視	1 安全監視(若しくは安全監視)の体制 2 安全監視(若しくは安全監視)の体制 3 安全監視(若しくは安全監視)の体制 4 安全監視(若しくは安全監視)の体制 5 安全監視(若しくは安全監視)の体制 6 安全監視(若しくは安全監視)の体制 7 安全監視(若しくは安全監視)の体制 8 安全監視(若しくは安全監視)の体制			
E 改善	1 改善(若しくは改善)の体制 2 改善(若しくは改善)の体制 3 改善(若しくは改善)の体制 4 改善(若しくは改善)の体制 5 改善(若しくは改善)の体制 6 改善(若しくは改善)の体制 7 改善(若しくは改善)の体制 8 改善(若しくは改善)の体制			

※特に優秀・・・2点、O良好・・・1点、△改善・指導・・・0点、×法違反・社内ルール不遵守・・・▲1点
注、Dの1,2,3及びF、G、Hの×は法違反・社内ルール不遵守・・・▲2点

分類	No	点検項目	チェックポイント				コメント
			観測位置	評価用観測	使用状況	申告	
F 環境災害防止	1	安全帯等の設置	観測位置	評価用観測	使用状況		
	2	水平ネット等の設置状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	3	作業足場の設置状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	4	内部足場の設置状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	5	足場支保工の設置状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	6	開口部の状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	7	床面等の状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	8	関係者以外の立入禁止	観測位置	評価用観測	使用状況		
	9	立入、梯子の使用状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	10	ローリングタワーの使用状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
G 作業	1	高所作業車等の使用状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	2	取込用スチーパ等の使用状況	観測位置	評価用観測	使用状況		
	3	保護材料の飛散・落下防止	観測位置	評価用観測	使用状況		
	4	保護材料の飛散・落下防止	観測位置	評価用観測	使用状況		
H 建設機械災害防止	1	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	2	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	3	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	4	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	5	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	6	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	7	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	8	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	9	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
	10	作業計画書の発行	観測位置	評価用観測	使用状況		
I 電気	1	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	2	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	3	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	4	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	5	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	6	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	7	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	8	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	9	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		
	10	電気配線の点検整備	観測位置	評価用観測	使用状況		

合計点数・評価 A 100~90 B 89~75 C 74~60 D 59~

総合所見

評価基準(4段階評価)

重大性	判断基準	数値
軽微	不体災害	1
軽症	休業4日未満	2
重症	休業4日以上	3
致命傷	後遺障害	4

可能性	数値
ほとんど無い	1
可能性あり	2
可能性高い	3
確実である	4

評価点	内容	評価	対応
16	直ちに解決	5	即座是正実施
12	重大問題	4	早急に根本的措置
8~9	かなり問題	3	計画的改善
3~6	多少問題	2	何らかの改善
1~2	問題は少ない	1	状況により対策

評価基準(2月末日までにメールで返信願います。)

危険性・有害性評価		危険有害要因の特定		重大性	
重大性	可能性	起 因 物	事 故 の 型	作業	日数
1	2	36 人力機械工具(カッターナイフ)	8 切れ・こすれ	0	
3	1	41 仮・建・構(足場・安全帯切断)	1 墜落・落下	4	
1	2	51 物質・材料	7 はさまれ、巻き込まれ	0	
1	3	71 環境等	11 熱中症	0	
3	2	41 仮・建・構(ツラヤ作閉口部)	1 墜落・転落	1	
3	1	41 仮・建・構(地足場・鉄筋)	1 墜落・転落	3	
3	2	91 その他(バイク走行中)	90 その他	6	
1	3	71 環境等	11 熱中症	0	
1	3	71 環境等	11 熱中症	0	
3	2	41 仮・建・構(安全帯)	1 墜落・転落	2	
3	2	41 仮・建・構(足場板)	2 転倒	4	
3	2	41 仮・建・構(LEVゲート・扉面)	2 転倒	3	
1	2	12 動力機械(コンクリートポンプ)	4 飛来・落下	0	
1	2	52 材料(コンパネ)	8 切れ・こすれ	一人	
1	2	51 物質・材料(鉄骨ボルト)	4 飛来・落下	0	
1	2	13 木材加工用機械(卓上丸の)	8 切れ・こすれ	一人	
2	1	51 物質・材料(有害物・塵料)	12 有害物等との接触	事業主	
2	1	41 仮・建・構(建築物)	19 動作の反動	一人	

No	工 事 名	工 事 種	作 業 内 容	起 因 物	事 故 の 型	重大性
1	19	足趾裂傷	はつり	36 人力機械工具(カッターナイフ)	8 切れ・こすれ	0
2	18	左大腿骨骨折	溶接作業途中	41 仮・建・構(足場・安全帯切断)	1 墜落・落下	4
3	18	右足打撲	足場移動中(横移動)	51 物質・材料	7 はさまれ、巻き込まれ	0
4	18	熱中症	防水補修作業中	71 環境等	11 熱中症	0
5	17	手足着打撲	防水作業	41 仮・建・構(ツラヤ作閉口部)	1 墜落・転落	1
6	17	右腿付近側傷	足場移動中(横移動)	41 仮・建・構(地足場・鉄筋)	1 墜落・転落	3
7	17	鎖骨骨折	散水ホースを巻く	91 その他(バイク走行中)	90 その他	6
8	17	熱中症	成打製作業	71 環境等	11 熱中症	0
9	17	熱中症	足場解体作業	71 環境等	11 熱中症	0
10	16	肋骨骨折、左中指切傷	電気工事	41 仮・建・構(安全帯)	1 墜落・転落	2
11	16	足指打撲、左中指切傷	防水移動中	41 仮・建・構(足場板)	2 転倒	4
12	16	腕、左右切り傷	足場移動中(昇降)	41 仮・建・構(LEVゲート・扉面)	2 転倒	3
13	16	左手中指指傷	ブーム設置セット中	12 動力機械(コンクリートポンプ)	4 飛来・落下	0
14	16	右手薬指指傷	コンパネ運搬作業中	52 材料(コンパネ)	8 切れ・こすれ	一人
15	15	左背中打撲	地盤改良作業中	51 物質・材料(鉄骨ボルト)	4 飛来・落下	0
16	15	左手指間切り傷	丸のこ作業中	13 木材加工用機械(卓上丸の)	8 切れ・こすれ	一人
17	15	塗料中毒	塗料取付け作業中	51 物質・材料(有害物・塵料)	12 有害物等との接触	事業主
18	15	足首捻挫	並行移動中	41 仮・建・構(建築物)	19 動作の反動	一人

平成20年度 工事部安全目標 ・ リスクアセスメントによる災害防止活動の充実・強力推進
 ・ 各工事課の安全管理体制の確立と安全衛生活動の充実・活性化
 ・ 墜落・転落災害をゼロにするための先行対策の徹底

平成20年度目標評価	実績	評価
重大災害(作業十事故型)		◎
行動目標		○
行動目標		△
行動目標		X

平成21年度目標	目 標	実 績
重大災害(作業十事故型)	墜落・転落災害の防止、安全帯の着用及び点検	
行動目標	新規入場教育の充実・徹底	
行動目標	安全帯の点検及び適正使用の確認・教育の実施	

※ 記入箇所(ブルーに着色した箇所)

- 平成20年度目標評価 実績・評価
 (1) 度数率と発生件数は、安全環境課で記入済
 (2) 評価は、安全環境課で記入済(✓)
- 平成21年度目標
- その他

平成21年度目標	目 標	実 績
重大災害(作業十事故型)		
行動目標		
行動目標		
行動目標		